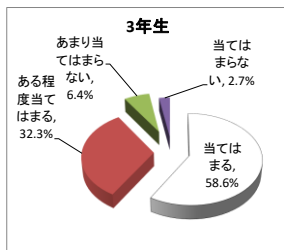
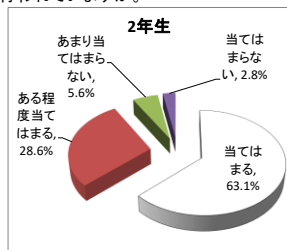
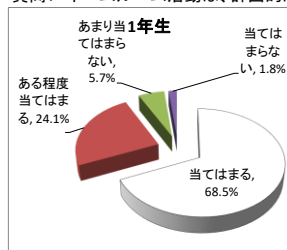


# 令和5年度第2回ホームルーム活動に関する調査 令和5年12月実施

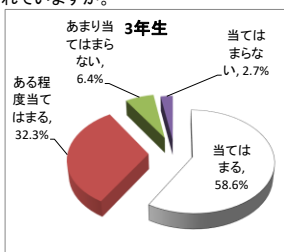
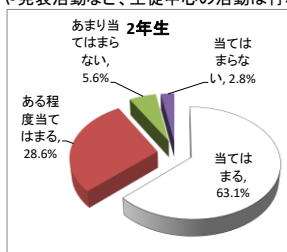
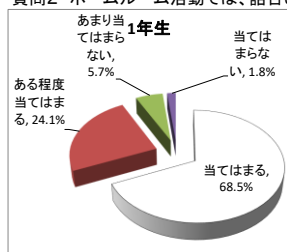
	1年生	2年生	3年生
回答数	336	287	297
回答率	92.8%	90.3%	92.5%

質問1 ホームルーム活動は、計画的に行われていますか。



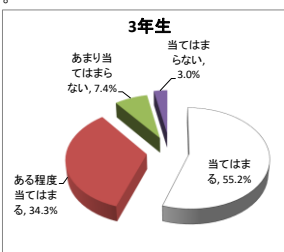
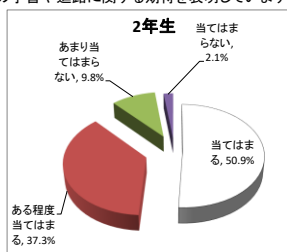
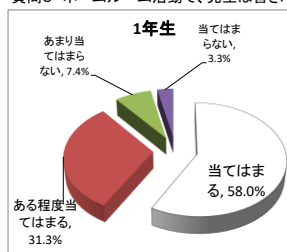
一般的傾向としては、学年進行とともに、「当てはまる」割合は下向していくものですが、全学年ともに計画性のあるHR活動が行われていることが読み取れます。否定的回答が全学年ともに1割未満であることは、学校としての取組が出来ている事の証左であると言えるでしょう。

質問2 ホームルーム活動では、話し合いや発表活動など、生徒中心の活動は行われていますか。



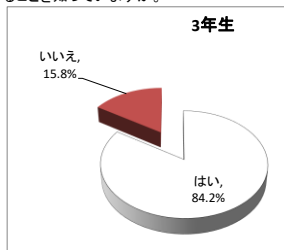
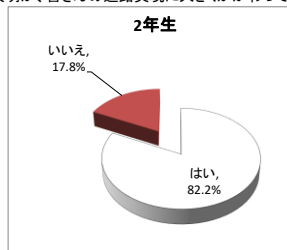
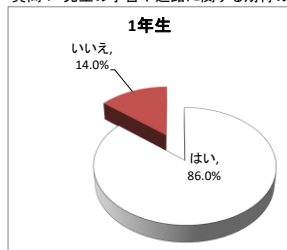
学年進行とともに生徒中心の活動は少なくなるのが一般的ですが、全学年ともに9割以上が肯定的回答をしていることは、驚くべき結果です。話し合いや発表活動が十分に行われていることはとても大切です。

質問3 ホームルーム活動で、先生は皆さんの学習や進路に関する期待を表明していますか。



一般的には学年進行とともに生徒に対する「期待」の表明の割合は高まるはずですが、2年生では下がっています。3年生もそれほど高まっていません。生徒に対する期待の表明がもつ重要性を教員が十分に認識していない事が窺えます。

質問4 先生の学習や進路に関する期待の表明が、皆さんの進路実現に大きくかかわっていることを知っていますか。



前回調査より回答数が増えてもどの学年でも「はい」の割合が増加しています。これほど多くの生徒が、先生方の期待の表明と進路実現が関わっていることを理解しています。コロナ禍で過ごした中学時代と比較して、学習や進路への期待も増え、生徒の心に届く「期待」の価値を実感しているのではないのでしょうか。今後も生徒に期待し、学習成果や進路実現に繋がるホームルーム活動を実践をしていきます。